

集中ケア認定看護師について



集中ケア認定看護師とは？

生命の危機状態にある患者の病態変化を予測した重篤化の回避、廃用症候群などの二次的合併症予防及び、回復のための早期リハビリテーションの実施を中心とした看護を専門にした看護師

昨今は診療の補助を行うといった看護スタイルから、“看護の専門性が問われる時代背景”の流れもあり、看護の広がりと質の向上のための実践活動をしていくことが役割として活動しております。当施設は地域医療支援・世田谷区唯一の総合病院として24時間体制で受け入れを行い、医療の日進月歩、2025年などを含めた高齢社会への問題点や患者様の多様性に対応できるようにチーム医療を推進しています。



このようなことに取り組んでいます

- ◆患者、その家族の入院前生活を把握した関わりを増やしていく
- ◆ICU内で、看護実践・教育・相談、看護の質の向上のための看護手順・基準作り
- ◆ICU内で、多職種・チーム医療の推進と構築のための活動

患者様にとっての入院加療は身体回復を目的にすることだと思いがちですが、その反面よいことばかりではありません。治療の一環として安静保持を強いられることが多くありますが、そうなることで、生活リズム(サーカディアンリズム)が乱れ、昼夜の理解や入院生活がわからなくなる(せん妄状態)ことや、筋力低下による日常生活だけではなく立位や歩行もできなくなる(廃用症候群)に陥ることもあり、身体的・精神的に負担がかかることが多くあります。高齢の方々には入院前の生活スタイルなど身体・精神機能次第ではその進行具合は急激なものになり、原疾患(診断名)が順調に回復できたとしても退院延期や退院後の生活に大きく影響と家族の方々の負担も増えていくことが問題視・医療の重要トピックスの1つとされています。

その対策の1つとしては患者様・その家族の入院前生活や価値観・性格などを含めたことを把握することで、より個別的な医療提供が行えるように・具体的支援に組み込んでいくこと＝“看護の広がり”をもてるような実践・教育・相談を意識しています。また、主治医はじめ、理学療法士・薬剤師・栄養士とチーム医療を推進と手順や基準を作成して構築へ向けた活動をして多様な判断をしていくことで、より専門的な介入により回復支援の一助になれるような活動をしています。

今後の活動予定・抱負

- ◆院内、急変対応チームの企画・運営・推進活動
- ◆ICU 外への活動拡大、看護の標準化と質の向上へ向けた活動
- ◆更なる ICU 看護・チーム医療構築と推進活動



現在、赴任して 2 年目を迎え、ICU 内での活動を主にしていますが、病院全体の急変対応チーム(医療安全室&有志の心肺蘇生資格を有した医療スタッフ)の企画・運営・推進活動も開始させて頂いております。その活動の中でも**最重要なことは“チーム医療を推進していくこと”**を意識しています。

医療とは一人では何もできません、自己満足の看護・医療にならないようにするためにも EBM(根拠)に基づいた知識と知見のスキルアップを行うことは言うまでもなく、医療スタッフ(看護師)の皆さんが働きやすい、そしてお互いスキルアップして患者還元できるような活動を推進・拡大していくことを目標にしています。

さいごに

私達、医療チームスタッフ(看護師)が
サポートさせて頂く機会がありましたら
“その人らしさ”を踏まえた医療(看護)提供を共に考え
介入(関わらせて)させて頂きます
そのための準備・活動を継続していますので、
もしもの際にはお声かけ下さい

慢性心不全看護認定看護師

この分野は、2012年から開始された認定看護師としては新しい分野になりますので、心不全とは…？活動内容は…？など紹介させてください。



心不全とは何か??

心臓は全身へ血液を送り出すポンプの役割があります。この働きが低下して全身へ必要な血液を送れなくなってしまった状態が心不全です。また心不全とは、あらゆる循環器疾患の終末像であり、増悪と寛解を繰り返す進行性の症候群です。そのため、生命予後が不良であるばかりでなく心不全増悪による入院を繰り返すため社会的にも問題となっています。

慢性心不全看護認定看護師の役割とは??

- ①安定期、増悪期、終末期における慢性心不全患者とその家族のQOL向上に向けて看護実践ができる
- ②慢性心不全看護領域において、看護実践を通して他の看護職者等に対して指導・相談ができる

慢性心不全認定看護師を目指したきっかけ

循環器病棟で勤務するなかで、入退院を繰り返す多くの心不全患者さんに出会いました。退院後2週間せず再入院してくる患者さんと出会い「なぜこんなにも入院を繰り返すのか？」という壁にぶつかりました。解決方法が見出せずにいたときに「慢性心不全看護認定看護師教育課程」が2011年に誕生しました。心不全のことをもっと理解したい、増悪をさせないために看護師ができることには何があるのか？という思いから資格取得を目指しました。

資格取得後、最も感じたことは疾病管理だけをおこなっていても再入院予防に繋がらないということです。特に高齢の心不全患者さんは疾病管理以前に日常生活を整えることが重要です。そのためには、医師、理学療養士、栄養士、薬剤師、MSW等の協力が必要不可欠です。当院では循環器カンファレンスを毎週行い、多職種が専門的知識を用いて患者さんへの支援にあたっています。

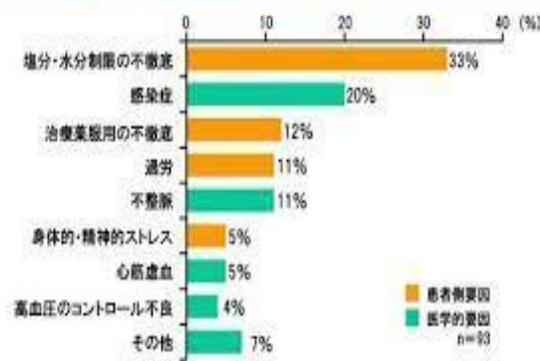
現在の認定活動について

心不全は、治療を行う事で一旦症状は改善されますが、症状がよくなっても、心不全が完全に治ったわけではありません。再び悪化させないように生活習慣に気をつけて、心不全とうまく付き合っていくことが大切です。

心不全が悪くなる要因には、医学的な要因と患者側の要因があり患者側の要因には予防可能なものが多く占めています。これらの増悪因子の評価を行い、患者さんの特性に応じて、療養生活を患者と共に考え調整しています。

増悪をしないこと、増悪に早期に気がつき対処することが患者さんの身体的負担や経済的負担を軽減します。

図2 心不全再入院の原因



(Teuchihashi M, et al: Jpn Cir J 2000;64:953-959より改定)

心不全手帳について

教育用ページ
心不全の治療や日々の生活のガイドになります

医療スタッフ連携ページ
心不全患者さんを支援する医療スタッフが連携に活用します

記録用ページ
日々の体調の変化や服薬、運動などを記録します

日本心不全学会では心不全患者さんのための手帳『心不全手帳』を発行しています。

当院では、この心不全手帳を患者様の療養手帳として活用しています。手帳の前半は心不全教育用のページで、後半は毎日の御自分の体の状態をチェックするシートになっています。

診察時に医師や看護師と一緒に見ることで、体の状態の変化や日常生活で起きたこととの関連がわかりやすくなります。日常生活上の注意点やセルフモニタリングなどに活用し、心不全の増悪予防や増悪の早期発見に役立て頂けるように手帳の活用方法を入院中にお伝えしています。

おわりに

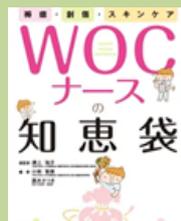
心不全を抱える患者さんやご家族の方が、「病気を抱えながらもその人らしく生きる」ことを目標に支援しています。病気や日常生活での不安や気になることなど些細な事で構いませんので気軽に相談していただけらと思います。

■ 今回のオススメの書籍をご紹介します！



「認知症のある患者さんのアセスメントとケア」
出版社：ナツメ社
監修者：六角僚子 種市ひろみ
本間昭

さまざまな困りごとと解決策が紹介されています。患者さんやご家族の気持ちが手に取るようにわかります。マンガも添えられており、思わずうなずきながら読み進められる内容です。



「WOCナースの知恵袋」
出版社：照林社
監修者：溝上祐子
編著：小林智美 黒木さつき

環境や物品、風土の違いなどからマニュアル通りのケアを提供することが難しいこともあるかもしれません。現場で使えるワザや、ケアのポイントを写真を用いて、具体的にわかりやすく解説されています。

公立学校共済組合 関東中央病院 看護部